

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とするが、卒後年数などを含めて希望に応じて柔軟に対応可能 ・当センターのレジデント修了者 ・関連するサブスペシャルティ領域専門医等取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・放射線腫瘍学の基礎となる腫瘍学および放射線腫瘍学の幅広い知識と治療技術の習得を目指す ・放射線治療の治療計画の基本からその応用である高精度放射線治療の知識および手技を習得する
	研修内容	関連各科のローテーションは3年コースと同様に自由選択。2年の研修期間の1年以上の期間は放射線治療科にて研修することが望ましいが、研修目標などによって応相談
	研修の特色	レジデント修了者に相当する経験と知識を有する5年以上の臨床経験を有する医師を対象とした研修年限2年のコースで、将来、放射線腫瘍学分野の指導的立場になり得る人材の育成を目的としています。指導医のもとで放射線腫瘍学の臨床ならびに高精度放射線治療の知識・技術の習得に努め、2年目には基礎および臨床研究または臨床試験を通じた治療開発の基礎を研修することが可能です。先端医療開発センターと連携して放射線生物および放射線腫瘍学に関連したトランスレーショナルリサーチも実施しているため、研究の基本的な手技習得から研究実施、成果の論文文化などの指導も行っています。

レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象としています ・採用時に医師免許取得後3年目以降が対象（上限はなし） ・基本領域専門医または認定医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・放射線腫瘍学の基礎となる腫瘍学および放射線腫瘍学の幅広い知識と治療技術の習得を目指す ・放射線治療の治療計画の基本からその応用である高精度放射線治療の知識および手技を習得する
	研修内容	関連各科のローテーションは自由選択。研修期間の50%以上の期間は放射線治療科にて研修することが望ましいが、研修目標などによって応相談
	研修の特色	放射線治療科は、頭頸部癌、食道癌、肺癌、乳癌、肝細胞癌、膵癌、前立腺癌などに対する根治的な放射線治療および骨転移を始めとする緩和的治療も数多く実施しており、加えて強度変調放射線治療や画像誘導放射線治療、定位放射線治療、呼吸同期照射などの高精度放射線治療技術も導入しています。局所進行癌では、術前・術後の放射線治療に加えて関連他科と連携して化学療法との併用も積極的に行っており、集学的治療の重要な一翼を担っています。また、新規薬剤と放射線治療との併用に関する国内外の臨床試験や治験にも数多く参加しており、臨床試験に関する基本的な考え方や対応などについても研修可能です。 そのため、腫瘍全般の治療適応の理解はもちろん集学的治療における放射線治療の役割および高精度放射線治療技術を研修するには最適な環境です。 さらに日本で最初の病院設置型の陽子線治療があり、頭頸部癌、肝臓癌、肺癌、骨軟部腫瘍、小児がん、前立腺癌などを中心に陽子線治療を行っているため、X線による放射線治療と陽子線治療の両者の適応や併用などによる治療選択の研修が同時にできる全国でも数少ない施設です。研修期間中に、国立がん研究センター中央病院を含め他施設への研修（交流研修）を行うことも可能です。

レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象としています ・採用時に医師免許取得後3年目以降が対象（上限はなし） ・基本領域専門医または認定医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・放射線腫瘍学の基礎となる腫瘍学および放射線腫瘍学の幅広い知識と治療技術の習得を目指す ・放射線治療の治療計画の基本からその応用である高精度放射線治療の知識および手技を習得する
	研修内容	関連各科のローテーションは3年コースと同様に自由選択。2年の研修期間の1年以上の期間は放射線治療科にて研修することが望ましいが、研修目標などによって応相談
	研修の特色	放射線治療科は、頭頸部癌、食道癌、肺癌、乳癌、肝細胞癌、膵癌、前立腺癌などに対する根治的な放射線治療および骨転移を始めとする緩和的治療も数多く実施しており、加えて強度変調放射線治療や画像誘導放射線治療、定位放射線治療、呼吸同期照射などの高精度放射線治療技術も導入しています。局所進行癌では、術前・術後の放射線治療に加えて関連他科と連携して化学療法との併用も積極的に行っており、集学的治療の重要な一翼を担っています。また、新規薬剤と放射線治療との併用に関する国内外の臨床試験や治験にも数多く参加しており、臨床試験に関する基本的な考え方や対応などについても研修可能です。 そのため、腫瘍全般の治療適応の理解はもちろん集学的治療における放射線治療の役割および高精度放射線治療技術を研修するには最適な環境です。 さらに日本で最初の病院設置型の陽子線治療があり、頭頸部癌、肝臓癌、肺癌、骨軟部腫瘍、小児がん、前立腺癌などを中心に陽子線治療を行っているため、X線による放射線治療と陽子線治療の両者の適応や併用などによる治療選択の研修が同時にできる全国でも数少ない施設です。研修期間中に、国立がん研究センター中央病院を含め他施設への研修（交流研修）を行うことも可能です。

レジデント 短期コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象としています ・原則として基本領域専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする ・卒後年限に上下限なし
	研修目標	・放射線腫瘍学の基礎となる腫瘍学および放射線腫瘍学の幅広い知識と治療技術の習得を目指す ・放射線治療の治療計画の基本からその応用である高精度放射線治療の知識および手技をその期間に応じて習得する
	研修内容	1年未満の研修期間の場合には、放射線治療科にて研修する。2年以上の研修期間の場合には、希望に応じて関連各科のローテーションは自由選択可能。最短3か月から最長2年未満の期間に在籍します。研修内容についても、研修期間や希望に応じて柔軟に対応します ※原則として3か月単位とする（応相談可能）
	研修の特色	放射線治療科は、頭頸部癌、食道癌、肺癌、乳癌、前立腺癌などに対する根治的な放射線治療および骨転移を始めとする緩和的治療も数多く実施しており、加えて強度変調放射線治療や画像誘導放射線治療、定位放射線治療、呼吸同期照射などの高精度放射線治療技術も導入しています。局所進行癌では、術前・術後の放射線治療に加えて関連他科と連携して化学療法との併用も積極的に行っており、集学的治療の重要な一翼を担っています。 そのため、腫瘍全般の治療適応の理解はもちろん集学的治療における放射線治療の役割および高精度放射線治療技術を研修するには最適な環境です。 さらに日本で最初の病院設置型の陽子線治療があり、頭頸部癌、肝臓癌、肺癌、骨軟部腫瘍、小児がん、前立腺癌などを中心に陽子線治療を行っているため、X線による放射線治療と陽子線治療の両者の適応や併用などによる治療選択の研修が同時にできる全国でも数少ない施設です。

専攻医 コース	対象者	基本領域専門医取得のため研修中の専攻医を対象としたコースです 下記の全ての条件を満たした医師が対象となります ・医学部卒業後3年目以降 ・日本医学放射線学会専門医制度の連携施設として国立がん研究センター東病院を選択した専攻医
	研修目標	・短期間の研修で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標としています
	研修内容	・国立がん研究センター東病院に、3か月単位、最長2年間に在籍します ・希望に応じて関連各科等の診療科を、各科最短3か月単位でローテーションします
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です